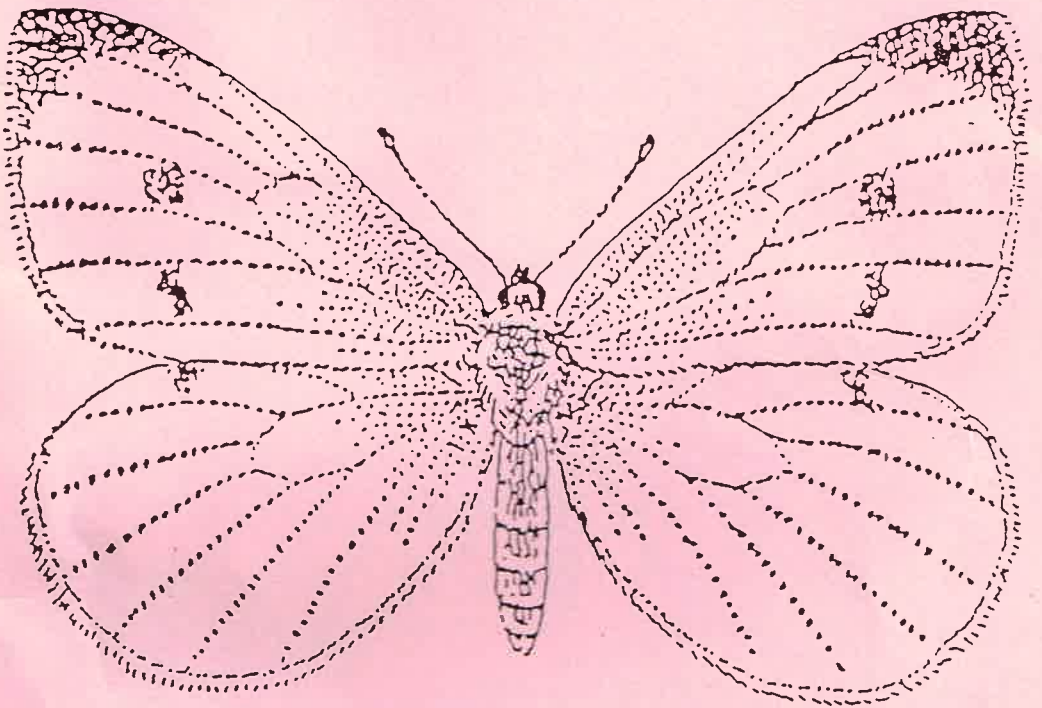


エゾマツ



Pieris rapae

No. 26

1993. 7. 30

北海道ボランティアレンジャー協議会

季節の森に感動を重ねて

会長 大友 健

私達は、身近に季節の巡りを、自然界より感じ取ることが日常的になつて、それだけに、楽しさを味わっているのではないのでしょうか。

春が巡り、過ぎ去り、そして夏に向け歩む季節の森には、もう見方によっては、初秋の営みが森全体として行われ、そこにはいろいろなドラマが展開されていることに、気付かずにはられない。

私達仲間は、昨年引き続き支笏湖国民休暇村で、周辺の森、湖、樽前山をふくめ火山の生成など、自然界の生物の営みも加え紹介し、翌日早朝散策の中で身近かに自然に触れていただくというフィールドを得たのである。

時間的にも、行動的にも、支笏湖周辺の大自然の、ほんの一隅を散策するに過ぎないが、季節はもち論のこと、日々がフィールドにいろいろ変化を見せてくれ、それらは感動を生み出すもととなり、小さな植物に、種々の樹木にと変化を求め、自然界の摂理にしぼし感動し、知識の深まりと共に、意欲に燃えるのである。林床植生が大部分花を終え、結実期に入りはじめ、樹木は肥大と上長成長のため、葉面一杯に陽光を受けているものやら、種子の熟期に入ろうとしているものがあり、目をこらすとさまざまであり、その間を昆虫が、小鳥が活発に動き、飛び交い、森はもち論、樹木の周辺でもドラマが展開されている。

感動に感動を重ねながら、休暇村を訪れる人々の喜びから、次回のテーマを与えられるような、気持ちになる日々が続くのである。

感動をそのまま埋もれさせずに、自身でストーリーを作り出し、より深い知識の上に立ち、自信に満ちた自然解説に、つないで行くべきではないだろうか。

休暇村を去り行く人々に、「森が生活の中に、一つのリズムとして入り込み、安らぎというメロデーとなって、心に響いて来るためにも、森の中で遊び自身で森に何かを語りかけてください。」と話しかけることを常としていきたい。



—お詫びと訂正—

エゾマツ No. 25号の3頁3行目の「十勝ボラ・レンの会」は「十勝ボラ・レン友の会」が正式な名称でした。ここにお詫びと訂正をいたします。

先日の北海道南西沖（奥尻島沖）地震に際し、被災地の方々へ心からお見舞い申し上げます。さて、北海道にもようやく短いけれども貴重な夏がやってきました。

会員の皆様におかれましては、それぞれのフィールドで日々ご活躍のことと存じます。そうした情報や活動の内容、感想等をぜひ投稿いただきたく、よろしくお願いいたします。会報誌は、会員の皆様の情報交換や関係機関との連携を図るために発行されています。本号では、春の人事異動で就任されました、北海道保健環境部自然保護課長の多田さんから原稿をいただきましたので紹介いたします。

また、北海道立林業試験場からインストラクター・リーダー受講者の名簿が届いています。これからも自己研鑽を積み重ね、自然と人々との掛橋となるよう努めてまいりましょう。本号の投稿者を紹介します。

美唄市南美唄町栄町南

中田茂男さん

札幌市南区藤野3条9丁目263-36

田原弘之さん

河西郡芽室町西8条6-1

田中一儀さん

これからも多くの方々のご意見や体験談、感想等をお待ちしています。

追って、ご案内があると思いますが、第8回北海道ボランティア・レンジャー協議会定期総会が8月28日（土）に予定されています。会員の皆様の積極的な参加をよろしくお願いいたします。

足元からの活動を!!

北海道保健環境部自然保護課長 多田 誠

ボランティアレンジャーの皆様が、野幌やあるいは道内各地の森林公園などで自然観察会を通じて、森林の成立ちやその役割、また、植物をはじめ、鳥や昆虫などの数多くの生き物が生活していること、さらにゴミの投げ捨てをやめることや動植物をみだりに傷つけないなど、上手に自然とつきあっていく方法など、道民の一人一人が自然に親しみ、理解を深めていくお手伝いをされていることに心から感謝しております。

昨年の地球サミットをはじめ、今年6月にラムサール会議が釧路で開催され、さらに7月には札幌で野生動物の保護管理や、大気・海洋のモニタリングなどの環境プロジェクトを進める国際会議である北方圏フォーラムが開催されるなど、自然環境の保全が一つの国では維持できないことが認識されてきたことから、国際的な協力体制が強く求められるようになってきました。

北海道は、国内でも最も豊かな自然環境に恵まれていると言われ、国立・国定公園をはじめ、数多くの自然公園が整備されています。また、各地で身近な自然を活用した森林公園なども整備されており、貴重な自然を保全し、また、保健休養やレクリエーションの場として利用されています。

これらの自然環境を道民の財産として将来にわたって守り、子供たちに受けついでいくことが重要な課題となっています。このため、住民の一人一人が自然を良く理解し、地道に行動していくことが大切になっています。

皆様の活動によって一人でも多くの道民の方々が自然環境への認識を益々高めていくことに期待しています。

自然第 235 号
平成 5 年 5 月 31 日

北海道ボランティア・レンジャー協議会

会長 大友 健 様

北海道保健環境部長

厚谷



平成 5 年度ボランティア・レンジャー
育成研修会の後援依頼について

自然保護行政の推進につきましては、日ごろから特段の御協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

この度、標記育成研修会を別紙実施要領により実施することになりました。

つきましては、本研修会の趣旨を御理解いただき、御後援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

(自然保護課保全係)

平成5年度ボランティア・レンジャー育成研修会実施要領

1 目的

北海道の恵まれた自然環境を将来にわたって保全し、次代に引き継ぐためには、自然の素晴らしさを体験し、自然のしくみやそのはたらきについて理解してもらうことを通して、自然保護思想の高揚をより一層図ることが必要である。

そのためには、人と自然との橋渡し役をする自然解説員（ボランティア・レンジャー）が必要になることから、本研修会では自然保護の基礎的知識の修得や体験の場を通じて、各地で開催される自然観察会等で住民相互が自然への理解を深め合うボランティア活動を行っていただける人材を育成しようとするものである。

2 主催者

北海道（保健環境部自然保護課）

3 実施場所及び期間

回	開催期日	開催場所
14	8月6日(金)~8月8日(日)	桧山郡厚沢部町（桧山支庁管内）

4 対象者

満18歳以上の健康な男女で、自然に興味を持っておられ、今後各種の自然観察会や探鳥会などにおいて、ボランティア活動を行っていただける方、又は今後ボランティア活動を行いたいと思っておられる方。

5 募集人員

50名程度

6 講師

氏名	所属・職名
関 秀志	北海道開拓記念館 学芸部長
梅木 賢俊	北海道環境科学センター 主任研究員
間野 勉	" 研究員
住友 順子	日本野鳥の会札幌支部
菊地 政光	" 道南桧山支部幹事
橋場 一行	北海道立林業試験場 林業専門技術員
大沢 孝三郎	" "
小川 巖	エコ・ネットワーク 代表
矢部 藤子	"

7 研修内容

- (1) 北海道の自然のなりたちやその変遷の歴史等基礎知識を習得する。
- (2) 自然観察会等の方法や技術を研修する。
- (3) 自然観察や探鳥会等を実際に体験する。

8 受講証の交付

北海道知事は、研修を終了した者に対し受講証を交付する。

9 受講申込み

受講を希望する者は、次の期間内に往復はがきに住所、氏名（フリガナ）、年齢、職業、性別、郵便番号、喫煙の有無及び研修場所への交通手段を記入し、北海道保健環境部自然保護課あて申込みをする。

回	申し込み期間
第14回	平成5年7月1日～平成5年7月20日

10 受講予定者の決定

受講希望者が募集人員を超えた場合は基本的に抽選等により受講者を決定する。

なお、募集人員以外に5名以内で補欠を決定し、受講予定者が受講を辞退した場合は順次受講予定者に決定する。

11 その他

この研修会の参加に要する経費（食費、宿泊費、交通費等）は受講者の負担とする。

- ・研修施設 厚沢部町山村開発センター集会室（町役場内）
 桧山郡厚沢部町新町207番地 TEL 01396-4-3311
- ・宿泊場所 俄虫温泉旅館
 桧山郡厚沢部町字上里92番地 TEL 01396-7-2213

平成5年度 ボランティア・レンジャー実践セミナー開催要領（案）

1 目的

北海道の恵まれた自然環境を将来にわたって保全し、次代に引き継ぐために、自然の素晴らしさを体験し、自然のしくみや役割の理解を通して、自然保護思想の高揚を図るため、人と自然との橋渡し役になる自然解説員（ボランティア・レンジャー）を育成してきた。この実践セミナーでは、自然観察会等で活動しているボランティア・レンジャーの資質の向上を図るため、実践的な知識及び技術の修得のため開催するものである。

2 主催者

北海道（保健環境部自然保護課）

3 開催時期

平成5年10月2日（土）～10月3日（日）

3 開催場所

桂沢観光ホテル

三笠市桂沢温泉

tel.01267-6-8225

4 対象者

ボランティア・レンジャー育成研修会修了者

5 募集人員

40名程度

6 講師（検討中）

所	属
北海道林業試験場、 エコ・ネットワーク等	

7 研修内容

- (1) 専門知識を修得する
- (2) 自然観察における企画、立案の方法について修得する

8 カリキュラムの内容

(1) 専門知識の修得 [北海道林業試験場(予定)]

7 講義

菌類(キノコ類)の識別や生育についての知識の習得(予定)

イ 実習

実際にフィールドで菌類(キノコ類)の観察及び識別(予定)

(2) 自然観察における企画、立案の方法 [エコ・ネットワーク]

7 講義

自然観察会を実行するためには、企画、立案、実行という手順で進められるが、往々にして実行のみが重要視され、企画部門が充分でなく、ボランティア・レンジャーとして活動をする上で、企画、立案への参加が強く望まれている。

講義の中でこれまであまり触れられなかった部分にスポットを当て、その大切さ、面白さを認識してもらうとともに、今後の活動の基礎としてもらう(予定)。

イ 実習

グループに分けて自然観察の場所を設定し、テーマを決めて、それぞれのグループ毎に自然解説をしてもらう(予定)。

平成 5年 5月24日

北海道ボランティア・レンジャー協議会 御中

道立 林業試験場

橋場 一行

新緑も日増しに濃くなり、よい季節になって参りましたが、

益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、このたび、当场で開催しましたインストラクター・

リーダー養成講座における受講者募集やPRについては、

ご尽力をいただき、大変お世話になりました。

お陰様で別紙のとおり15名の方の参加をいただき、皆さん

熱心に受講されました。今後ともよろしくお願いいたします。

北海道立林業試験場

支 庁	市 町 村	所 属	氏 名
釧 路	釧 路 市	北海道ボランティアレンジャー協議会	まえがわ ひろし 前川 弘
十 勝	帯 広 市	"	いけだ けいけい 池田 啓介
十 勝	新 得 町	"	あさくら しんし 朝倉 省子
十 勝	芽 室 町	"	なかの かずのり 田中 一儀
渡 島	函 館 市	"	ながたか ひろゆき 長岡 宏幸
渡 島	函 館 市	"	ながたか のりこ 長岡 範子
上 川	美 富 良 野 町	"	にいの かずや 新野 和也
空 知	岩 見 沢 市	"	てらやま かつら 寺山 昇
石 狩	当 別 町	"	いごうし かずお 五十嵐 一夫
胆 振	苫 小 牧 市	"	かわかみ いさお 川上 勲
後 志	二 七 町	"	いけだ いくろう 池田 郁郎
空 知	滝 川 市	"	まんないとめこ 万代トメ子
後 志	喜 茂 別 町	喜茂別地区林業指導事務所	おがまし しょうさう 我妻 庄三
石 狩	札 幌 市	札幌管林署 東知山溪森林事務所	さくわい ようこ 櫻井 洋子
釧 路	厚 岸 町	"	ほしの しゅうじ 星野 修司

環境月間協力行事

野幌自然観察会に参加して

美唄市 中田 茂男

平成3年秋、羊蹄山麓は真狩町で開催の第9回ボランティア・レンジャー育成研修会に参加、晴れて横路知事名による受講証書をもらい、早速北海道ボランティア・レンジャー協議会にも加入し、より一層の研修をと思っていましたが、幸いその年11月苫小牧市植苗ウトナイ湖サンクチュアリでの第3回ボランティア・レンジャー実践セミナー、また昨年9月黒松内町歌才での第4回実践セミナーに参加することが出来、大変感謝しているところです。

この間、関係者の方がたにすっかりお世話になり、かつまた多くの貴重な仲間を得ることができました。そしていつか実際にお手伝いといひますか、現場での勉強の機会をと心していました。しかし、市役所に現職として務めている間はどうしても無理かと自からに言い聞かせ、明春3月31日の退職後に行動開始をと心待ちにしていたところでしたが、幸か不幸かことし4月1日付けで、第3セクター方式の美唄情報開発学園に派遣されることになり、これまでより、いささか時間に余裕があり、土、日曜日は間違いなく休めるという見通しがついたのです。

こんなある日、協議会会長名で腕章が、そして、機関誌エゾマツとことしの行事案内が送付されてきました。その中にうちの協議会主催行事として、環境月間協力行事—野幌自然観察会とあり実施日6月6日、下見は5月29日と案内されておりました。私はこれだと思い、自からの浅学菲才をも顧みず、まずは昨年黒松内町歌才でお世話になった当協議会副会長の佐々木幸夫さんにお電話をしたのでした。『よし判った 下見から出て来れるか?』とのことでしたので、出れますと言うと駐車場の利用の仕方、集合場所などを教えてもらいました。

お聴しい限りですが、私はこれまで野幌森林公園に行ったことがないので、できれば下見に行く前に私個人で下見をしたかったのですが、そんな機会もないまま、5月29日まずは「森の自然教室」を訪ねたのでした。当日は、いつもよりレンジャーの方が少ないとのことでしたが、佐々木さんを中心にみんなベテラン揃い、加えて公園利用課の課長さん、主任さんなど10人程で、お名前までは知ると言うか、お尋ねする余裕はありませんでした。下見は、瑞穂池園地ということで出発です。私は、みんなの後をついて歩くのがやっとでしたが、樹木、草花など特徴的なものについて説明の打合わせをしたり、また1週間後までこの花はもつだろうかなど、本番を控えてのシナリオ造りに懸命でした。私はこの公園のスケールの大きさ、管理の行き届いた姿などに感心、目を見張るばかりでした。メモだけはとったのですが、アッという間の下見でした。

さて、6月6日、日曜日はいよいよ本番です。この日はなるべく早く出席するようにと言われていましたので、美唄の我が家を7時すぎには出かけることとしました。9時半の定刻には70人余りの観察会参加者が集まり、まずはレンジャーの割り振りが行なわれ、私は新前レンジャーとして、佐々木副会長の班に配属させてもらいました。

当日は、簡単なパンフレットが配られました、これには自然観察クイズなども印刷されていて、知らず知らずのうちに自然を見る眼が養われるよう工夫されたもので、参加者に対してキメ細やかな配慮が伺われました。

いよいよ出発です。当然ですが下見の際と同じコースを歩み出したのですが、1週間という日時は、コース周辺の様子を変えていました。オタマジャクシや、エゾサンショウオの幼虫が沢山いた水溜りが乾いていたり、確かに咲いていたはずの花が見当らなくて葉が成長したためか様子が変わっていたり、もちろん予期しなかった、あるいはつぼみだった花が咲いていたりで、その変わり様にはびっくりしました。

佐々木副会長の参加者に対する接し方は見事なもので、まずは問いかける、

触れさせて比較させる、注意をうながすといった手法でなかなか答えを出しません。とことん参加者に考えさせ、調べさせるといった態度には頭が下がりました。成る程、レンジャーの知ったか振りはタブーなのでしょうね。

好天、微風、そして多くの野鳥や草花、樹木の若葉に迎えられた観察会は、各班共無事目的地の瑞穂池に到着、お昼をもって解散となりました。

レンジャーの方は、一同車座になって大友会長さんを囲みまずは昼食、そのあと今日の反省点など話し合われ、今後の参加、出席の動向などを打合せてお開らきとなりました。

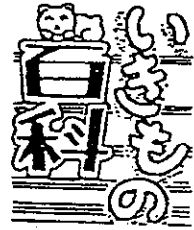
私は憧れの観察会に参加して多くを学んだ満足感と、自分の知識不足、勉強不足という焦燥感にかられましたが、まずはローマは1日にして成らずと自からに言い聞かせ、これからは機会あるごとに出席し、実践を重ねると共に、個人としても、もっともっとこの森に足を運ばねばと心に誓うのでした。

そんな訳で、家に帰ってから復習のつもりで、これまでの2回の実践セミナーのノートをめくって見ましたら、その中に当日の講師を務めた小川 巖さんのメモが出てきました。 即ち

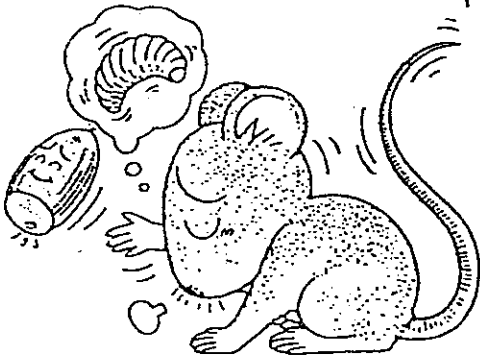
ボランティアレンジャーの役割はいわば「自然と人との橋渡し役」

- 一つ、 必要なのはスペシャリティではなくホスピタリティ
- 二つ、 一方通行の解説では、自然の楽しさ面白さは伝わらない。
- 三つ、 自然を楽しむプログラムは、現場で作り出すものである

————— と。



木の実は熟すと落ちて芽を出し、次の世代を作るが、発芽前に虫などに食えらわてしまふ実も多い。ところが



イラスト・荒井 孝昌

が、ドンケリの虫食いは、むしろネズミに食べられるのを防ぎ、ネギスのドンケリよりも生存する可能性が高いことが分かってき

虫に食わせネズミ断つ

これぞドンケリ流サバイバル

た。

農水省森林総合研究所北海道支所星田研究室の福山研二客員は、森林で木の実を食べるとネズミに、

ても、芽を出さず先端部が三分の一以上残っていれば、発芽できる。これを食べるのは主にシギゾウムシ類の幼虫だが、うまくい

ドンケリの祖先から

食べるため、約半数は丹心の先端部が助かるのだ。熱帯の様々な樹

虫食いと無キズのドンケリを混せて与えてみた。至内実験の結果、食べ残した割合は、無キズが三〇%、虫食いが四五%。野外では、さらに大きな差が出る例もあった。福山さんは「人間と同じで、虫の食ったフルーツはますます感じるのじょう」と話す。

実験に使ったドンケリは、北海道、東北地方に分布する広葉樹のミズナラ。このドンケリは虫に食われ

木についても、国立環境研究所の可知直毅さんが研究しているが、「動物の嫌がる味やにおい、毒を含んだり、数年おきに大樹に種を作るなど、樹木の防御機構は多様。またまた分からないことばかりだ」という。

子孫を残すための巧妙な仕組み。人間よりもはるか昔から生き続けてきた樹木たちの「知恵」は、神秘的だ。

×モ

シギゾウムシ類は種類が多い。北海道の試験地では、三種（クリシギゾウムシ、コナラシギゾウムシ、クロシギゾウムシ）いた。七月に成虫になる。雌は若いドンケリに口を突っ込んで穴を開け、そこに産卵管を差し込んで一〜五個産卵する。卵はドンケリの中で幼虫になり、中を食べて育つ。ドンケリが地上に落ちると、幼虫はドンケリから抜け出し、土の中にもぐってさなぎになり、七月九月に成虫になって地上に現れる。産卵が一〜二個と少ないとドンケリは発芽が可能で、四〜五個と多いと発芽できないとされている。

ニセコ の 自然 を 楽しむ 集い

***** ペンション『ふきのとう』のオーナーとともに *****

札幌市 田原弘之

6月6日のボラ・レン主催の野幌自然観察会に参加したおりの反省会のときに、五十嵐さんからニセコのペンション『ふきのとう』のオーナー（ボラ・レンの池田さん）と「ニセコを自然を楽しむ集い」の話があり、参加しました。以下はその感想記です。

実施日は6月26、27日で、参加者は成田伸一さん、樋口達郎さん、五十嵐さん夫妻と私、翌日参加の佐々木幸雄さんと小淵修子さん。

ペンション『ふきのとう』は、ニセコアンヌプリスキー場のすぐ下、十数軒のペンション村の中程にあり、敷地の中央にしゃれたペンションが建ち、その回りは50種以上のいろいろな植物が植えられており、玄関前にはイタヤカエデの大木が二本、裏にはミズキの大木があり中々見事です。

（一日目は晴天）

到着後、おいしいコーヒーをごちそうになってから神仙沼に向かう。空からはウグイスの歓迎を受け、道端のエゾイチゲ、ヒメタケシマランやミツバオウレンなどの可憐な花々に迎えられ、沼に到着。

例年なら神仙沼を彩るミツガシワの花を目にできなかったけれど、湿原にはチングルマとショウジョウバカマが満開でした。

帰りがけ、ベニバナイチゴが咲いているかも？ということで長沼へ入り運良く咲いているのを確認出来ました。

神仙沼にはこれまでも数度訪れているが、今回行って驚いたのは、木道から外れた踏み跡が数カ所、はっきりとついていたことです。

ちょうど我々が行った時も、立派なカメラを持った十数人のグループがおかまいなしに湿原に入り込みシャッターを切っていた。

「自然に親しもう」と掛け声をかけるたびに、自然の中に土足で入り込む人間が増え、その数が多くなるにつれ、自然がだんだん荒れていく現状を眼の当りにして「これで良いのだろうか」と考えてしまう。

夜、風呂上りにオーナー心づくしの料理とビール、オーナー自慢の果実酒数種で大いに盛り上がる！

（二日目は雨）

朝食中（焼きたてのパンと手づくりジャムは絶品！）に佐々木さんと小淵さんが到着。雨が小降りになったところでアンヌプリに出掛ける。

雨中にもかかわらず、ちょうど竹の子採りのシーズンとあって沢山の人が賑っていた。雨の中をアンヌプリの中腹まで登るとアカモノが咲きはじめウコンウツギが鮮やかな色を見せていた。

下山後、イワオの湯元近くの暖かい所で昼食。

朝よりも一層深くなった霧の中をペンションへ・・・

一休みの後、オーナーに見送られ、お土産を手に帰途につきました。

“十勝ボラ・レン友の会” ニュース

十勝支庁管内 田中一儀

道の第11回ボラ・レン育成研修会を修了した者11人で結成した、“十勝ボラ・レン友の会”のことは、エゾマツ25号ですでに報じた。今回は、その後の動きについて報告する。

その一、

第2回集会を、去る5月23日、メムロスキー場内のログハウスで行った。朝からの雨にもかかわらず11人の会員の中9人出席。熱心に討議が行われた。その結果、年内の会合は、観察会の企画、運営の実習訓練に重点をおく。具体的には、各会員が一人づつ、順番で観察会のリーダーになる。他の会員は、ヴィジターになる。会の終了後、ヴィジターがリーダーの動きを前向きに検討する。

その二、

当会員の中、すでに活発にボラ・レン活動を行っている久保清司、佐藤 満氏を紹介しよう。

帯広から南東へ50k、釧路から西南へ約70k、国道38号線を走ると、北から南へ流れる浦幌川にたどりつく。この川の両域が浦幌町である。両氏は、この町を拠点に自然観察会を開催させている。観察会を組織してすでに三年。発足以来、月一回の観察会を年間を通して開催している。B5判4頁ではあるが、毎月会報を発行している。会の予報・連絡などの記事、会員の感想文、そして、佐藤 満氏の執筆による「読む図鑑」が連載されて盛り沢山。現在の有料会員は40人を突破。最近では町外からの入会者も増えつつあるという。行政の後押しもあったとは聞くが、大変な努力を重ねてこれたのではないかと思う。更なる発展を期待して止まない。

その三、

動に対して静、我が会員の寺田直子嬢は、静かな観察。そして、ひたすら祈る。目立たないけれど、一つの行動であらうか。去る6月4日の道新朝刊に掲載された彼女の記事を転写させて頂いて、今回の報告を終わりたい。



鳥のさえずり来年も

代善保母 寺田 直子

(十勝管内清水町・31歳)

今年も近くでカッユウが鳴きました。四月の初めにヒバリが鳴き出し、今ではたぐさんの小鳥たちがかわいらしい声でさえずっています。

花々は時が来たのだといっせ

いに咲きそわい、ひと雨ごとに花も緑も色鮮やかになってきました。またミスガはい、虫が飛びます。自然の鼓動—なんて美しい世界なのでしょう。

が、いつの日か環境破壊が進み「沈黙の春」を迎える日が来るかもしれないという心配も覚えます。

どうか来年もカッユウが帰ってきてくれる場所でありたいと思います。

それは、5月の連休のことであったと記憶している。中学生の私は、自宅の前でこの世のものとは思えないものに出合った。それは、全身がピカピカと青く光る、美しい小鳥である。チルチルミチルの青い鳥に、サトウミツルはすっかり魂を奪われてしまった。まるで誘われるように、この鳥を追って、家の脇の雑木林に入って行ったのだ。まだ、葉の出していない、寒々とした林の中で、青い鳥は、ひらり、ひらり、と逃げるでもなく、移動していった。家に戻った私は、興奮さめやらぬまま、図鑑のページを繰った。そして、知った名前がオオルリである。

天は二物を与えずという言葉がある。でも、このオオルリに限って、天は二物を与えてしまった。姿のよさと歌のうまさだ。この鳴き声がまた、ピールリ、ポールリところがすように美しい。姿は先に書いた通りの目を見張る美しさだ。天はどこまでこの鳥に肩入れしているのか、と考えるのは、実は早合点である。天は意外と意地悪なのだ。二物を与えた代りに、悪の手先をオオルリに差し向けた。その名はジュウイチ。聞き慣れないかもしれないが、カッコウの仲間の鳥である。カッコウの仲間と聞いて、察しのいい読者は気が付いたかもしれない。そう、ジュウイチは、自分では子どもを育てない鳥なのだ。悪の手先ジュウイチは、オオルリの巣を見つけだし、この中のオオルリの卵を捨てて、悪の卵を産み込む。何も知らぬあわれなオオルリは、醜い巨漢の雛を一生懸命育て上げる。そして成長したジュウイチは、きっと、けたけたけたといやな笑い声を残して、オオルリの元を去っていくに違いない。こうして、他人の子と気が付かぬまま、コバルトブルーの貴公子は一夏をムダに過ごしてしまうという次第だ。

オオルリは、沢筋に多い鳥である。沢沿いの高い樹の頂でよい声でさえずっている鳥を見つけたら、一応はオオルリを疑ってみることだ。運がよければ、コバルトブルーに光り輝く姿態に驚いて、30cmも飛び上がることになるだろう。オオルリのオスは、青さに個体差があり、これは年令による部分が大いなのだと思うのだが、10cmほどしか飛び上がれない場合もあるし、中には、青い鳥とはいえないほど地味なやつもいる。そして、他の多くの鳥がそうであるように、オスは美しいが、メスは地味だ。よくメスは汚くてかわいそう、という声をご婦人方から聞くのだが、はたしてそうだろうか。オオルリのメスには、巣の中で卵を温める「抱卵（ほうらん）」という大事な仕事がある。それを、キャバレーのオネエちゃんよろしくびかびかに着飾った姿でとり行ったのでは、たちまち外敵に巣（えいそう）場所を見つかりてしまう。だから、メスが地味であることは、オオルリが子孫を絶やさないうためには、どうしても必要なことなのだ。そりゃあ、彼女たちも女だ。おしゃれの一つもしたいに決まっている。しかし、これも子どものため、と耐え忍んで、あのような姿に甘んじているのだ。うーん、何と禁欲的で、ポロは着てても心は錦なやつではないか。派手にさえずるオスの陰には、このようなメスがいることを時には思い出してやろう。



ある国立公園のボランティア・ レンジャー解説マニュアル

自然解説のための6原則

- (1) 自然解説は、その対象者（聴衆）の個性（personality）や経験（experience）を考慮し、その個性や経験と関連づけて行わなければならない。
- (2) 自然科学的な知識や情報を教えること（information）は、自然解説（interpretation）ではない。自然解説は、情報に基づいて行われる啓発であって知識を与えることではない。しかし、知識や情報を与えることは自然解説の一部である。
- (3) 自然解説は、科学、歴史、建築などの学問を媒介とした芸術であり、しかもいくつかの部門を組み合わせた複合芸術である。
- (4) 自然解説のねらいは教えること（instruction）ではなく興味を刺激すること（provocation）である。
- (5) 自然解説は、自然の一部ではなく全体を解説するように務めるべきであり、対象も一部の人だけでなく、あらゆる人々を対象にせねばならない。
- (6) 12歳ぐらまでの子供に対する自然解説は、大人を対象にしたものを薄めてやさしくしたものではなく、異なった観点から考えねばならない。

自然解説（レクチャー）のための話し方

自然解説のように、話を聞くことを義務づけられていない相手を引きつけて、ある考えを伝えること（話をすること）は、非常に難しいことである。祭礼の時に熱弁をふるう香具師は誰にでも出来るわけではなく、トレーニングを重ねた結果、優れた技術を身につけたものである。自然解説員についてもトレーニングが必要である。

一方自然解説を聞く人は、彼らの貴重な時間をさいて聞くのであるから、興味をそそる話、わかりやすい話、人を引きつける話、楽しい雰囲気を持つ話を聞く権利を持つと考えよう。

(1) 自然解説ボランティアが知らねばならないこと

- 話を聞くにはエネルギーがいる。
- 長時間、精神を集中することはエネルギーを要し、難しいことである。
- 騒音や他人のおしゃべりなどによって、気が散ると考えられなくなる。
- レクチャーに参加する人は非常に気紛れな面を持つ。
- 参加者にはいろいろなタイプの人があり、職業、年齢、性別、教育程度、知的能力、自然や国立公園についての関心の度合など異なる人々の集まりである。

(2) レクチャー（話）の構成

□ 話の主題

話し手は、話の主題について話を聞く人の誰よりも詳しく知っている必要があり、また、十分知っていることに話題を限定したほうが良い。話をする目的は啓蒙することであって、聞く人を話の主題に関して専門家にすることが目的でないことを十分認識していなければならない。

□ 話の構成

話は次ぎから次ぎへと展開させねばならない。一般には序論、展開部分、結論があって話は構成されるが、主題をいかに展開するかによって基本構成を考える。序論と結論は基本構成が出来上がった後に考える。

- I 序論は参加者の気持ちを話し手と話す内容に向けさせる大切な導入部であり、これに失敗すると、話の主題について十分理解を得ることが出来なくなり、そのレクチャーすべてが失敗することになる。そのためには、聞く人すべてに共通して関心をひくことに留意する必要があるが、関心をひくことと驚かすこととは全く異なることである。
- II 話の主題を決定し、論理的に展開させる。そのためには飛躍があってはならない。方法としては、話題の展開を短い文章でメモし、だから、たとえば、そのうえ等の言葉でつないで展開させる。
- III 結論は最も大切である。聴衆に最大の印象を与え、いつでも忘れないで心に留めておかれる言葉は最後の数分間にある。聞く人に対する訴えや将来に対する展望でまとめて終わるのが一般的である。最後は質問に移り、「今日の話はこれで終了します。有り難うございました」と、はっきり終わらねばならない。

(3) 良い話し手になるために

自然解説ボランティアとして良い話し手になるためには、話術を研究するだけでなく、すぐれた自然解説員として必要な事項を研究する必要がある。この項においては、良い話をするために必要な最低条件を記す。ボランティア同志でチェックし、次ぎに同じ失敗をしないようにしよう。

- 話のもとになるまたは、引用した例についてのデータは、極力その出典を明らかにする。
- 多くの人の興味をひきつけるために逸話や実例を多く盛り込む。
- 比較し、対照する。
- 強調すべき大切な点を、言葉を変えて繰り返す。
- 視覚や聴覚を利用し、標本や鳥の声のテープなどを活用する。

(4) 話すときの心得

- 解説をするときは名札をつけ、まず自己紹介し、簡単に主旨を説明してから行う。
- リラックスした雰囲気、楽しく行う。
- リラックスした中にも、礼を失しないようにすること。(服装、失礼な言葉、個人的な宗教、信条の押しつけ等)
- 人真似でなく、自分で工夫して(初めは人真似でも自分で話題を探したり、教材を工夫したりして、楽しいものに行う)。
- 注意をひきつけてから話す。(身近な話題、珍しいもの、一緒に動作する等)
- 印象深くしめくくる。(うまくまとめる、ダラダラと話題を続けない、疑問、余韻を残す)
- 自信を持って話す。

(5) 話す時の注意(態度・動作など)

前項の「良い話し手になるために」に含まれる項目であるが、話し慣れていない人にとって、話をする時の態度や動作などは、数多く体験して初めて体得出来る技術で難しいことである。慣れない人は、大勢の前に立っただけで準備していた話を忘れてしまったり、どこを向いて話をしたら良いのか分からなくなって、下を向いてボソボソと聞き取りにくい言葉で話しがちであるので、特に項目を設けて記す。

- 話をする前に、その話をする会場全体に話を聞こうとする雰囲気を作り出すことが大切である。会場がざわめいている時に話を始めると、終りまでその雰囲気が続いてしまい、話を聞こうと集まった人を失望させることになる。話を始める前には、聞く人の目をすべて話し手に集めなければならない。
入口から演壇に向かって、胸を張って歩くだけの動作で聞く人の注目を集めることが出来る。張りつめた表情は自信を表し、聞く人に敬意や信頼の念を起こさせる。次ぎに、正面を向いて、話を聞く人を見渡すことによって、すべての視線を話し手に集めることがキーポイントとなる。
- 話を始める時は、会場の後の方にいる人(具体的には後列から3~4列目の人)に話しかけるように、その人との距離、会場の大きさを判断して声の大きさを決めねばならない。視線もその人の方を見て、はっきりとした口調で声を出すのがコツである。

- 会場がざわざわとし、声が後列の人まで届かない時には、声を大きくするだけでは解決しないことが多い。声を低く、小さくすることは、大きな声を出すより効果的であることが多い。
- アガルと声が高くなる傾向がある。話し始めの第一声は、ゆっくりと低い声で話し始めると良い。
- 個人的な話し方のクセには日頃から十分注意して、訓練しなければならない。話の合間のとり方、同じ単語の重複、同じ構成の文章の繰り返し、等。
- 意味のない動作（髪の毛に手をやる、チョークをもてあそぶなど）は、行っ
てはならない。
- テーブルに寄りかかること。ポケットに手を入れること。ボタンをかけた
り、はずしたりすること。これらは敬意や信頼の念を失わせる。
- 話の終わりで言い訳をしたり、不必要なことを言ったりしてはならない。話
が盛り上がった一番良い所で幕切れである。
- 話慣れない話し手は、最初はどうしてもアガルことが多い。このアガルの
を防ぐ最大の方法は、経験を重ねることであることは銘記すべきであろう。

- i 準備を完全にすること。
- ii 話の枕（話し始めの第一節）を、しっかりと決めておくこと。
- iii 話し始める前に深呼吸をし、聴衆を見渡すこと。
- iv 話の大筋をメモしたものをしながら、話をする事。

環境月間協力行事「野幌自然観察会」概況報告

1) 目 的

環境月間協力行事として、野幌道立自然公園での森の自然に接して、楽しい自然観察のなかから、身近な自然保護を含めた環境問題を考える。

2) 主催と協力

主 催……………北海道ボランティア・レンジャー協議会
後 援……………北海道保健環境部自然保護課
協 力……………北海道野幌森林公園事務所

3) 開催日時

平成5年6月6日(日)AM9:30~12:30

4) 開催場所

野幌森林公園内百年記念塔下「森の自然教室」広場を出発点に、開拓の沢コースに入り、瑞穂の池園地で解散する約2.1Kmの距離。

5) 参加者数

総 数 99名(うち、ボランティア・レンジャー16名)

6) 配付資料

・自然観察テキスト(冊) ・バッジ(道立自然公園) ・北海道立自然公園野幌森林公園(野幌森林公園事務所提供) ・森林(もり)のいろいろ ・地球はあなたのやさしさをまっています(道立自然公園) ・平成5年度野幌森林公園事務所の森林観察会(野幌森林公園事務所提供) ・森林のオーナー募集分収育林のご案内 ・その他

7) 評 価

開催日は、天気予報から降雨の怖れがあったが幸い開催時間帯ではなく、開花中の草木やエゾハルゼミの声、野鳥のさえずりなどを見たり聞いたりすることが出来、事故もなくほぼ計画通りに終った。

野幌森林公園事務所の 森林観察会

四季の森林観察会

(協力：北海道ボランティア・レンジャー協議会)

- 秋の森林観察会 平成 5 年 10 月 17 日 (日) 9:30 ~14:30
冬 冬の森林観察会 平成 6 年 3 月 12 日 (土) 9:30 ~14:00
[集合場所や観察コースなどは、1ヶ月前までにお知らせします。]

月例ウォッチング

(協力：北海道ボランティア・レンジャー協議会)

- * 11月の月例ウォッチング 平成 5 年 11 月 11 日 (木) 10:00 ~12:00
* 12月の月例ウォッチング 平成 5 年 12 月 9 日 (木) 10:00 ~12:00
* 1月の月例ウォッチング 平成 6 年 1 月 13 日 (木) 10:00 ~12:00
* 2月の月例ウォッチング 平成 6 年 2 月 10 日 (木) 10:00 ~12:00
[午前10時に開拓記念館前(7月の月例ウォッチングは森の自然教室前)に集合して、開拓記念館周辺を散策します。事前申込み不要です。]

チビッ子森で遊ぼう

(協力：北海道ボランティア・レンジャー協議会)

- * チビッ子森で遊ぼう 平成 5 年 10 月 9 日 (土) 10:00 ~13:30
[開拓記念館周辺でネイチャーゲームをしながら自然に親しみます。]
[事前受付け、定員：子供32名、対象：小学校4年生以上]
[詳細については、8月上旬にお知らせします。]

関連行事

(主催：北海道ボランティア・レンジャー協議会)

(後援：北海道保健環境部自然保護課)

(協力：北海道野幌森林公園事務所)

- * 野幌自然観察の集い
平成 5 年 9 月 5 日 (日) 9:30 ~12:30
[集合場所や観察コースなどは、1ヶ月前までにお知らせします。]

お 知 ら せ

北海道ボランティア・レンジャー協議会が主催もしくは協力する野幌森林公園での森林自然観察会は下表のように確定していますが、その下見につきましても、会員皆さんの勉強会としての色彩が濃いことから、下記のとおり日時を決め、沢山の参加が出来るように計画しました。お待ちしております。

集合場所・集合時刻は本番と同じですが、不明の点がありましたら、研修部に照会ください。

自然観察会名	本 番	下 見	区 分
四季の森林観察会 夏の森林観察会 秋の森林観察会 冬の森林観察会	5年 8月 8日(日) 9:30~14:30 * 10月17日(日) 9:30~14:30 6年 3月12日(土) 9:30~14:00	5年 7月31日(土) 9:30~14:30 * 10月10日(日) 9:30~14:30 6年 3月 5日(土) 9:30~14:00	協 力
月例ウォッチング 1 1 月 1 2 月 1 月 2 月	5年11月11日(木)10:00~12:00 * 12月 9日(木)10:00~12:00 6年 1月13日(木)10:00~12:00 * 2月10日(木)10:00~12:00	5年11月 9日(火)10:00~12:00 * 12月 7日(火)10:00~12:00 6年 1月11日(火)10:00~12:00 * 2月 8日(火)10:00~12:00	協 力
チビッ子森で 遊ぼう	5年10月 9日(土)10:00~13:30	未 定	協 力
野幌自然観察 の集い	5年 9月 5日(日) 9:30~12:30	5年 8月29日(日)9:30~12:30	主 催

「スズメ」

私たちの周りをみて最も日常的な野鳥として親しまれているのがスズメです。

一応、留鳥(あまり移動しないで、一年中同じ場所で生活する鳥)として分類されていますが、よく調べると、二つのグループがあることがわかっています。

留鳥として生活しているのは、小さな群れで建物などにねぐらをとる、住みつきの場所を持った成鳥の一部です。

成鳥であっても一定地域に留まらず、都市と農村を繁殖と越冬のために移動する習性をもつもの及び若鳥は、大きな群れをつくり放浪生活をおくっています。

僅か25グラムのスズメが渡りに似た移動をする、とは信じがたいことですが、以前新潟県豊栄市で約5、800羽に標識をして放したところ、再捕された約160羽のうち約40パーセントが100~400キロ離れた場所で回収されたそうです。

こうした長距離の移動をするのは、当歳の若鳥であることが知られています。スズメの平均寿命は1.1歳。自然長寿例としては、5~10歳。一般的にはおよそ2、3年と考えられており、自然死亡率は55パーセントとされています。高い死亡率や短命には多産でカバーする、というのが自然界の法則です。

スズメは、一シーズンにおよそ二回繁殖し、一回につき4~7個の卵を産みます。卵は12日間温められてふ化し、約二週間育てられ巣立っていきます。巣立ち率(産卵数に対する巣立ち数)は、55~60パーセントといわれておりますから、短命や高死亡率を十分カバーできるようです。

ところで、最近になって、ユーラシア大陸から日本にはいないはずのスズメが発見されました。これまで日本に生息するスズメは、スズメとニューナイスズメの二種類でした。

これにイエスズメが加わり、スズメの世界も国際化が進んでいくものと考えられます。数十年後には大陸にみられるように人里にはイエスズメが、森の中にはスズメが、より深い森にはニューナイスズメが生活する、ということになるのかもしれませんが。

野幌森林公園でニューナイスズメを観察していた時、ふと、そんな気がしてきました。

編集後記

今年は、日照不足が心配される夏のようなのですが、地震などの災害を見ましても自然の力を侮ってはならない、ということを変えて実感されます。

さて、本協議会の定期総会が8月28日（土）に予定されています。

まだまだ改善の余地があるかと思いますが、会員の皆様と一歩ずつ改善を図りたいと思います。

今、夏真っ盛りということで 皆様それぞれが各地でご活躍とは存じますが、本協議会のより一層の活性化を図るためにもご協力をよろしくお願いいたします。

役員会から・・・

第4回（平成5年2月6日 札幌市職員会館 18:00～ 20:30）

協議事項 会員数について

協議会腕章の作成について

会報の原稿募集方法について

冬の森林観察会の協力について

その他 助成金の申請資料の作成について

第5回（平成5年7月19日 札幌市職員会館 18:30～ 20:30）

協議事項 第8回定期総会開催について

夏の森林観察会の協力について

北海道ボランティア・レンジャー協議会

会報「エゾマツ」第26号 1993. 7. 31

発行責任者 大友 健

（表紙題字は岡田 元北海道生活環境部長）